



# 全教北九州

新聞 全教北九州  
全教北九州市教職員組合  
発行責任者 中川喜久子  
2022年4月1日

全教北九州 検索 採用おめでどう 特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

## 「仕事と生活の調和」で学校を魅力ある職場に



©佐藤秀峰「ブラックジャックによろしく」

子どもにも教職員にも「安全・安心」な学校を  
「生きがい」「働きがい」は  
「よりよい勤務労働条件」整備から

北九州市の教職員に採用されたみなさん、おめでどうございます。みなさんは、夢や希望、理想をもって仕事に就かれたことと思います。しかし、私たちが安心して働ける勤務条件の保障なしに、これらが実を結ぶことはありません。私たち全教北九州市教職員組合（全教北九州）は、教職員の願いに根ざした運動をおこなっています。

「働き方改革」を「くらし改革」につなげよう

教職員の「働き方改革」が推進されていますが、長時間労働は解消されず、家庭生活や自由な時間等の個人の暮らしが犠牲になっています。「働き方改革」は、やりがいを感ずる働き方と充実した暮らしを保障する「くらし改革」です。

全教北九州は、「仕事と生活の調和」を目指し教育委員会と長時間労働解消に向けて交渉を続けます。

休暇は気兼ねなくとりたい

パーソルキャリア株式会社の実施した男性の育児休業に関する調査によると、将来育児休業を取得したいと回答した男性は80%にのぼりました。

男性教職員も子が1歳になるまで育児休業が取得できます。その間給与は出ませんが、共済組合から育児休業手当金が支給されます。他にも子育て支援・介護に関する休暇、年次有給休暇、病気休暇等

制度があります。しかし、学校は人手が足りず、誰かが休んだら職場が回らなくなるので遠慮してしまうのが実情です。

権利は必要な時に行使したい

教職員の適正な勤務労働条件は、子どもたちにより良い教育を保障するという側面をもっています。労働者の権利は、安心して仕事に取り組み、人間らしい生活を送るための道具でもあります。

私たちの権利を必要な時に安心して行使できる制度設計や職場づくりをともに考え、実現を求めていきましょう。

権利の行使に関する悩み、不当な労働行為等については「全教北九州ほっとライン（電話相談）」や組合ホームページの「問い合わせフォーム」から問い合わせください。

「あなたをマモロン」を

「活用ください

毎年全教北九州は「権利ハンドブック あなたをマモロン」を作成して新採のみなさんに配付しています。今年度の主な改正は2点です。

▼不妊治療のための休暇が新設

▼病気休暇の取得単位が一日半日又は一時間単位でしたが、「一回の取得を一日への換算」となります。（今年度は暫定措置で実施せず来年度から実施）

この権利ハンドブックは、組合ホームページからも閲覧・ダウンロードできます。

### 北九州の戦争遺跡

足立停車場・陸軍橋  
(小倉北区)

第12師団のために建設された「足立停車場」は敷地面積3万5千坪、180坪の洋風駅舎、300メートルのホーム、13本の側線、転車台、機関車への給水装置を備え、当時の小倉駅を凌ぐ広大な駅でした。駅舎は公共職業安定所向かいのタクシースタンドの場所にありましたが、駅の写真は存在しないようです。駅への移動は北方の部隊（歩兵47連隊・騎兵12連隊等）は香春道（国道332号の旧道）を利用しましたが、小倉城と周辺の部隊（師団司令部・歩兵14連隊等）は、駅との連絡路がありませんでした。そこで歩兵14連隊の兵営（勝山公園から西小倉小学校）と駅舎を繋ぐ直線道路が建設されました。このとき「紫川橋」が建設されました。この橋は「陸軍橋」と呼ばれていましたが、現在は「鉄の橋」の愛称が付けられています。香春口までの道路は駅廃止後も北方小倉の連絡路として利用されました。現在も市道中島4号線として現存しています。

# 「風かたか（かじかたか）・・・風よけ（誰を守りたいですか？）」「平和にしていって一緒に考えましょう」

### 3月26日 全日本教職員組合「憲法学習交流集会」レポート

沖縄には「風かたか」という言葉があります。台風の強風から命を守るために生まれた言葉ですが、日本がよその国の「風かたか」になって良いですか？それとも誰かの「風かたか」になりたいですか？

## 知ってほしい日本の現実

2月24日、ロシアがウクライナに侵略し、子どもたちを含む市民に甚大な被害が出ています。これは、国際社会が築いてきた平和秩序を壊す暴挙です。さらに、ロシアが核の先制使用に言及していることは核兵器廃絶にむかう世界の流れに逆行する許しがたい行為です。

今、ロシア国民も含めて世界中でロシア政府に対する抗議と平和を求める声が上がっています。教師として学校現場で働く者として、教え子も含めて子どもたちを誰一人戦場で失いたくないと思っていることと思います。しかし目の前の仕事と日々の生活に追われ、社会の動きに鈍感になってしまいがちになることも事実です。

3月26日（土）全日本教職員組合（全教）主催の「憲法学習交流会」に全教北九州からもオンラインで8人が参加しました。

最初にジャーナリストの三上智恵さんのお話がありました。

三上さんは沖縄の現実に触れ多くの人に発信をしようとアナウンサーからジャーナリスト・映画監督になった方です。「戦場ぬしみ」「標的の島風かたか」等）

お話の中で、「沖縄に米軍基地があることは多くの国民が知っているけれど、今や米軍は沖縄が戦場になることを想定し主力部隊が第2列島線や第3列島線に退いている。第1列島線である沖縄は自衛隊が守ることになっている。沖縄には自衛隊が増えている。大国は全面戦争は避けたいので、オフショウ作戦・中間作戦・制限戦と呼ぶ地域限定の争いで決着をつけたいと考えている。既に『先島戦争』という言葉もあるくらいで、宮古・石垣・与那国の南西諸島がその地域となっている、このような話をみなさんは知っていますか？」と、問いかけられ、あまりにも

国民に知らされていない現実に打ちのめされました。

戦争で軍事施設がまず狙われるのはロシア・ウクライナの戦争でも見ました。日本にとって世界初の原子爆弾が投下された広島は軍都でしたし、次の目標になった小倉も「小倉造兵廠」がある軍都でした。実際に投下された長崎は、三菱重工業が兵器を作っていました。軍事施設は狙われ、間違いなく市民も巻き込まれるのです。

なぜ沖縄に基地があるかは、世界地図を見れば一目瞭然。中国や北朝鮮・ロシアなど、アメリカと敵対する国の防波堤として日本が位置付けられているからです。沖縄には基地が多いけれど、沖縄だけではありません。オスプレイも今や日本のおちちを飛んでいます。

また、原子力発電所が攻撃されれば核爆弾を落とされることと何ら変わりない、ということも多くの原子力発電所がある日本

## 「一緒に考えましょう」

ロシア・ウクライナの報道を毎日見て、みなさんはどう感じていますか？いつか起こるかもしれない戦争のために、軍事力をさらにつけたいいけないと考えますか？憲法を変えて、自衛隊が戦争できる日本にしたいと考えますか？

改憲を最大の目標にしていた安倍元首相ですら開権を躊躇せざるを得なかった「憲法審査会」を岸田首相はほぼ毎週開催しています。

三上さんのお話の後、オンラインの参加者はブレイクアウトルームに分かれ、またサテライト会場の人は会場内でグループセッションを行いました。

北九州のサテライト会場には6人が参加していましたので、お互いの思いを交流しました。

その中で、「今ロシアのプロパガンダ（特定の思想によって個人や集団に影響を与え、その行動を意図した方向へ仕向けようとする宣伝活動の総称）が注目されているけれど、日本だつて情報は隠されているし、テレビ番組もスポンサー次第でどうにでもなるし、長時間労働で社会のことを考える時間をなくされているし、程度は違えど同じようなものと感じる。」という意見が出されました。また「今日みたいに驚きの事実を知って職場の人に言う、何この場にそぐわないこと言ってるの？」

と奇異な目で見られる」という思いも吐露されました。

どうしたら次に起こるかもしれない戦争を止められるでしょうか？三上さんはこうお話しされました。「軍事實態は全く、困った国や地域を助けるために予算を使う。どこからも憎まれない恨まれない国になる。」

そう、日頃の学級づくり、集団づくりと同じじゃないか！考えの違う多くの人が話し合いで解決する。国内も国同士も。教師も含めて公務員は仕事に公平性が求められますが、一人の国民として日本の今や将来のことを考え、知ろうとすることを止められているわけではない。

教職員組合では、「平和であつてこそ子どもたちの豊かな学びを保障できる」の信念の元、このような学習もしています。みなさんも一緒に考えませんか？

